

地域を守る法人で獣害対策をビジネスに(和歌山県田辺市上芳養日向地区)

- 平成28年、日向地区の30代若手農家5名が獣害対策を進めるため、「チームひなた」を結成、全員が狩猟免許を取得
平成30年3月、獣害増加・担い手不足・耕作放棄地増加などの問題に組織で対応するため、株式会社日向屋設立
- 同年にジビエ処理加工施設を地域に誘致したことで、捕獲個体の処理問題が解決し、獣害対策がビジネスに
日向屋は、農業＋狩猟体験、農作業受委託、加工品販売等の多様な事業を展開し、新たに雇用を創出

取組内容

- 狩猟技術を地域の熟練者から日向屋のメンバーが受け継ぎ、法人に蓄積
日向地区若手農業者に捕獲技術を普及、さらにICT技術(ほかパト(無線式のわな監視システム))を導入し、効率化



くくりわなによる狩猟技術を伝承



地区南北縁辺にくくりわなを集中的に設置
集落へ侵入する個体を重点捕獲

- 地区や田辺市、クラウドファンディング(CF)での支援を受け、ジビエ処理加工施設(ひなたの杜)誘致に成功、日向屋は柑橘・梅の加工品販売などを収益源として、狩猟＋農業体験(年間100名程度受入)などを展開



ひなたの杜



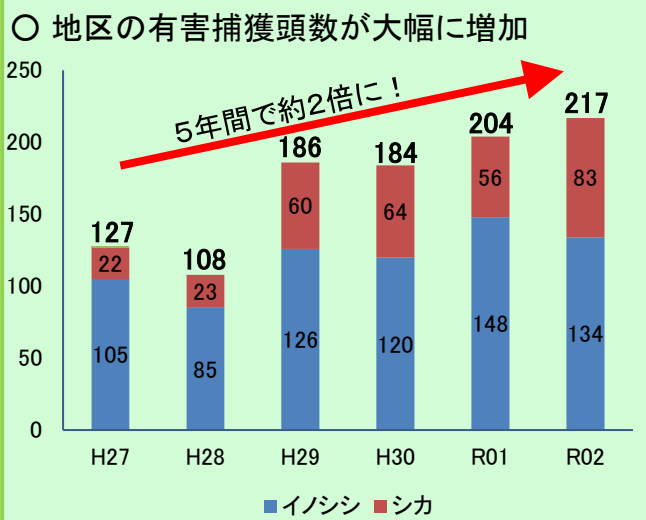
狩猟＋農業体験



ひなたのみかんジュース

成果

- 日向地区の若者に「自分達の村は自分達で守る」意識が浸透、狩猟免許取得者が増加
(H27年9名→R2年32名に)



- 被害発生の声がほとんど出なくなり、集落内の農地での被害は大幅に減少

地域を守る法人で獣害対策をビジネスに(和歌山県田辺市上芳養日向地区)

きっかけ・背景

- 日向地区は山間部の柑橘・ウメの農業が盛ん。住民約1,700名で大半は農業者
- 平成25年頃から獣害が顕著に増加

課題

- 日向地区の狩猟者の減少・高齢化(60代が数名のみ)
- 防護柵設置は進むが、被害は中々減らないため、捕獲せずに被害は減らないことを認識

Step1 狩猟チーム結成 (H28~)

- 地区の若手農家5名が狩猟免許を取得
- 捕獲技術を熟練者に教わり、自分達で害獣捕獲を開始

Step2 法人化と施設誘致 (H29~)

- 獣害だけでなく、組織で様々な地域課題に対応するため株式会社を設立
- 日向地区・田辺市等の支援を受け、ジビエ処理施設を誘致

株式会社 日向屋

日向地区



捕獲獣処理
体験ツアー

連携

免許取得、有害捕獲、ICT活用支援

和歌山県

田辺市

(市)施設整備支援

(県)加工設備導入支援

ひなたの杜 (紀州ジビエ生産販売企業組合)



ジビエ供給



フレンチレストラン

Step3 法人による多様な人材受入とビジネス展開

- 狩猟と農業体験を組み合わせたツアーや農作業受託、加工用農産物受入れのニーズが増え、日向屋として事業が拡大し、外部人材を新たに雇用

取組の特色

- 地域の農業者が設立した株式会社と獣害対策、ジビエ処理施設、地域内のレストランがビジネスで結び付き、対策は持続化
- 株式会社日向屋は獣害対策の枠を超え、担い手不足や耕作放棄地対策などの地域課題を解決するため、農作業受託や加工品販売を軸に多様な活動を展開

取組による成果・効果

- 地域の免許取得者が増加し、有害捕獲数も増加、農作物被害は軽減
- ジビエ処理施設が地域内に存在することで、獣害対策で問題となる止めさしや捕獲した個体処理の課題を解決
(設立当時H29年度はイノシシ・シカで20頭処理だったが、R2年度は420頭を処理)
- 法人は新たな雇用(パート4名、アルバイト4名を雇用)を産み出し、地域が活性化